

Glocal Tenri



12

月刊 グローカル天理 Monthly Bulletin Vol.11 No.12 December 2010

天理大学 おやさと研究所 Oyasato Institute for the Study of Religion, Tenri University

CONTENTS

- ・ 巻頭言
皆そこに存在する意味がある
ゴキブリもバイキンも・・・
／深谷忠一 1
- ・ 天理教教理史断章 (60)
その他の文書③
／安井幹夫 2
- ・ 天理教海外伝道の資料 (12)
上海伝道関連史料⑩
／深川治道 4
- ・ 天理異文化伝道の諸相 (75)
コンゴ伝道に見る異文化接触 [41]
／森 洋明 5
- ・ 今日の時代における宗教批判の克服学 (24)
さらば「宗教」から、ようこそ「宗教」へ
／金子 昭 6
- ・ 「二つ一つ」の環境学 (37)
野生生物の多様性と保全③動き始めた経済界
／佐藤孝則 7
- ・ ハワイ人とキリスト教：文化と信仰の
民族誌学 (21)
太平洋諸島のキリスト教②
／井上昭洋 8
- ・ 世界平和のための宗教対話 (23)
イタリアにおけるセクトの動向
／山口英雄 9
- ・ 天理スポーツ (7)
相撲と天理③
／難波真理 10
- ・ 図書紹介 (57)
『シモーヌ・ヴェイユの詩学』
／金子 昭 11
- ・ English Summary 12
- ・ おやさと研究所ニュース 13
おやさと研究所からの出版物一覧／平成 22 年度
公開教学講座「現代社会と天理教」(1)／教団
付置研究所懇話会年次大会に参加／第 231 回研
究報告会／全日本仏教会会議栃木大会シンポジ
ウムで発表／日本社会福祉学会・第 58 回秋季大
会で発表／平成 23 年度公開教学講座のお知らせ

巻頭言

皆そこに存在する意味がある ゴキブリもバイキンも・・・

おやさと研究所長 深谷忠一 Chuichi Fukaya

今夏訪米した時、シアトルの空港での税関検査で、みやげに持っていったカップヌードルを全部没収されてしまいました。どうやら九州で発生した口蹄疫を恐れるあまりの対策だったようです。まさかカップヌードルで口蹄疫が伝染するとは考えられませんが、たとえば、今年ある大学病院での院内感染で話題になった MRSA などによつてのパンデミック（世界的な感染症の大流行）が起きる可能性はありましたから、検疫も過剰なくらいの方がよかつたのかも知れません。

しかし、実際には、鳥インフルエンザのように、人間以外のキャリアーによつて細菌やウイルスが世界にばら撒かれることもありますから、検疫だけではパンデミックは防げません。ですから、従来の薬では退治できない多剤耐性菌などの細菌を殺菌する方法を見つけて、流行する前にその根を絶つ必要があるのですが、それに関して、イギリスの大学の研究チームが、意外なものの中に、多剤耐性菌への殺菌効果があることを発見しました。それは、ゴキブリやバツタの脳組織に、多剤耐性菌死滅作用があるというものです。ゴキブリやバツタの脳組織には、9種類の抗菌性たんぱく質が存在し、それが、薬剤が効かない多剤耐性菌に対する新たな抗生物質になる可能性があるというのです。

この世に、何故不衛生の極みだと忌み嫌われるゴキブリや、農作物の虫害の代名詞になるバツタなどが生存するのか？神様は何故そんなものを創られたのか？などと考えることがありますが、この殺菌作用についての研究が進めば、ゴキブリやバツタが、人類を救うことになるかも知れないということです。

また、ゴキブリなどに殺菌効果があるのは結構だが…そもそも何故ウイルスや細菌が存在するのか？という話でも、たとえば、“レトロウイルスが生命の進化に深く関わっている”という説が発表されています。

レトロウイルスが宿主の細胞に入り込んで、自らがその細胞の一部となって DNA を書き換える。そして、その変異した DNA を持つ細胞が分裂して拡散する。そのようなプロセスが繰り返されて、細胞の多様化が進む。それが、太古の単純な生命体が複雑化した仕

組みであり、生物の多様化が進んだ原因だということです。

さらには、ウイルスは、人間の母胎内で胎盤を形成し、妊娠を安定させるための重要な働きをすることも分かってきました。また、胎盤内で胚が形成される過程において、ウイルスは人間の脳の発達にも寄与しており、人間が持つ複雑な感情、たとえば、“人を愛す”というような感情も、ウイルスの働きによつて醸し出されるのだという説も発表されています。

また、最近ある薬品会社が、今話題のレアメタル（希少金属）を、細菌入りのバイオカプセルで回収する新技術を開発した、とも報じられています。直径 1～2 ミリのカプセルに詰まった 10 億個の細菌の体内に、金属イオンを吸収させることによつて、携帯電話などの基板に欠かせない高濃度のパラジウムなどを効率よく回収できる仕組で、破棄家電など都市鉱山からのレアメタルの発掘に有効だということです。

このように、バツタやゴキブリあるいは細菌やウイルスのように、他に害を及ぼすだけの迷惑な存在だと考えられていたものが、実は生命の進化や私たちの生活に重大な役割を果たしていることが、種々明らかになってきています。（部屋でゴキブリを繁殖させてよい口実を与えるのは、望むところではないのですが…）これからも、神のからだであるこの世に在る全てのものは、皆そこに存在する意味があり、どんなに不要に思えるものでも、全て陽気ぐらしの為に不可欠なものだということが、科学的にも次々に明らかになってくると思います。

その中で、“世界は親神様の守護で充ち満ちている”と説く我々道の者こそが、常に広く深い見識を持って、如何なる存在や現象の中からでも、その価値・有用性を見いだす努力をして、“成ってくる理をよるこぶ”教えを実行し、ややもすればベシミズムに流れがちな今の世を、明るい世の様へと替えていきたいものです。

“ゴキブリ亭主”も“バイキンマン”も、みんな陽気ぐらしを目指す仲間だということでもあります。